

ワゴン
グリーン
原
コ
ン
土 壌 改 良 剤 で 東 北 支 援
塩 害 農 地 で 米 収 穫

相模原市で遊園地を営むワゴングリーン(中央区磯部4-1、柳谷和幸社長)が開発した土壌改良剤「森の富植土」が、津波被害を受けた塩害農地の改良に効果があることがわかり、注目されている。

同社は遊園地作業のために出てくる伐採木や芝生などを、従来は産業廃



ワゴングリーンの「森の富植土」

米をまいて

棄物として多額の費用を「かけて処理していたが、

「せうかく育った植栽、なんとか次の節用法が見つけられないか」と活用方法を考える中で、チップ状にした生木と特殊なミネラル液を加えて培養させた土壌改良剤になることがわかり、2009年に開発された。

「早く、大昔から、森の富植土とそれ、森の富植土と

は山台市若林区の農家を訪れ、稲穂水田の土を、その製造に使うミネラル液を加えた土のサンプルをいくつか使った稲の栽培試験を始め、開始後

半もなく水田の土の苗は枯れたが、稲穂が穂れた。仙台に、度々足を運んで同社長は収穫した

「味は落ちるが、塩害農地を採れたとて大きな驚きがあったと話す。

この土壌改良剤で塩害農地の水の成分がどのように変化したのか、また分らないが、同社は今年、塩分濃度を下げながら、稲の生育を促すための取り組みを始める。

●三郷町工業団地相模原製作所開動(4月1日)

●三郷町工業団地相模原製作所開動(4月1日)